

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0892100173		
法人名	医療法人社団友朋会 栗田病院		
事業所名	グループホームクリクリ田彦	ユニット名( 青空 )	
所在地	茨城県ひたちなか市田彦後原950-48		
自己評価作成日	平成30年3月16日	評価結果市町村受理日	平成30年 7 月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。( ↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;Ji_gvosvoCd=0892100173-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;Ji_gvosvoCd=0892100173-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年4月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物や季節の行事を定期的に行っています。また法人内の介護施設と料理、工作、カラオケ等クラブ活動を通して交流を行っています。</li> <li>・天井が高く広々とした共有スペースがあり、快適に過ごして頂ける事と、各個室には介護ベット、タンクが備え付けになっていますが、ご自分の生活で使い慣れた品物の持ち込みも可能となっています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は環境美化が整っており、地域の住宅と調和のとれた佇まいになっている。                  事業所内は、居室を初め各場所の隅々まで清掃が行き届き、利用者が居心地よく暮らせるよう配慮されている。                  職員はグループホームクリクリの理念「あたたかい、笑顔の絶えない、家族の様な雰囲気」の下に、利用者の人格や尊厳を守りながら、その人らしい暮らしが継続できるよう支援している。                  同法人内の協力医療機関と連携し、利用者の健康保持や体調管理に留意しながら、安心して暮らせるよう支援している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を掲示し、各職員実践に繋がるようサービスに努めています。	毎週月曜日の引継ぎ時や職員会議時に理念を確認しているとともに、事務室と食堂兼居間に掲示して意識付けし、利用者への日々の支援に活かせるよう努めているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を検討、作成するまでには至っていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を、管理者と職員で検討し、作成することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が日常的に地域の一員としての交流が出来ていないのが現状です。今後地域の行事等確認しながら参加できるようにしていきたいと考えます。	事業所周辺を散歩する際には、近隣住民と挨拶を交わし、地域の様子を聴く等日常的に交流している。自治会長が運営推進会議に参加し、清掃活動や夏祭り等地域の行事についての情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が認知症の理解や支援の方法などを地域の方に向けて発信出来ていないのが現状です。今後取り組んでいきたいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の状況やヒヤリハット、インシデント等の報告をしています。その中でお話しした意見等議事録にあげ、改善できるものはその都度対応しています。	居室の空き状況や利用者の状態、前回の会議以降に発生した全てのインシデントやヒヤリハット等を詳しく報告し、課題等も含めて事業所への理解を深めるような取り組みを実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、介護相談員の方が月に1度来所されています。施設内に入って頂き、入居者様のお話に耳を傾けて下さっています。その際相談員と職員の間で意見交換記録票を用いて意見等頂いています。	介護保険の変更や更新の際には、担当窓口へ行き、相談等をしながら書類の作成と申請をしている。介護相談員を受け入れ、連携しながら、利用者と家族等の思いを汲み取ったりする等、安心して暮らせるような取り組みを実践している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束は行わないものとし、入居者様の様子観察等密にに対応しています。	防犯上、夜間は施錠しているが、職員は見守りに努め、出来るだけ施錠しない時間を設けている。運営規定や契約書に明記し、職員は身体拘束の無い支援に努めている。身体拘束排除に関するマニュアルがあり、内部研修を年1回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修等は今の所出来ていませんが、今後行っていきたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修も出来ておりません。今後取り組んでいきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆつくりと分かりやすい言葉でご説明するように心掛けています。その場で質問や疑問が無くても分からない事が出来れば随時説明します、とも声掛けしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様との関わりの中で出てくるご要望、ご意見等に耳を傾けてそれらを改善できるように努めています。	利用料金を持参してもらえようにするなど、家族等が来訪する機会を増やす工夫をして、来訪時に利用者の状況を詳しく伝えるとともに、家族等からの要望が聴けるよう信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は月に1度の全体会議において事業所現状報告をし、意見をしたり、頂いたりしています。	日頃から職員とコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、年2回管理者と個別面談の機会を設け、職員の意見や要望、目標、目標の達成度等を聞いている。レクリエーションの内容を充実させるための書籍購入の要望があり、購入したことで職員のレクリエーションのバリエーションが増加し、利用者の楽しみに繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握し適切な人員配置を行い、過度のストレスや疲労が蓄積しない様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修を計画し、職員がスキルアップ出来るよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方とのネットワークの構築や、交流が出来ていないのが現状です。今後取り組んでいきたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の初期は不安な事が多いのでコミュニケーションを密にし、ご本人のペースに合わせた対応を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安な事等に耳を傾けて、なるべくご家族に意向に沿った対応が出来るように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様とお話をしながら必要とするサービスを見極めて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や、施設内清掃、活動などを一緒に行い、同じ屋根の下で生活している事を楽しみながら実感できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは近況報告をしたり、また入居者様の昔話を聞いたりしながら、一緒にご本人様を支えているという事を感じて頂きながら良い関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の了承が得られれば、ご友人や親戚の方の面会も受け入れています。馴染みの場所にドライブに出掛けたり出来るように努めています。	入居の際に利用者と家族等の情報を基に作成したフェースシートを参考に、利用者の好きな花見等の外出を計画し、実践している。事業所の近隣の店で買い物をする等、新たな馴染みの関係が構築できるような取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し、孤立しない様に座席を配慮しています。また、皆さんが楽しく活動に参加できるように時に配置を変えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の都合で、他の施設に移られた方がいますが、現状はほかの施設に入られたという事もあり、コミュニケーションが取れていないのが現状です、今後は経過をホロー出来るよう努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を通して意向等の把握に努めています。困難な場合には本人本位で検討するように努めています。	日々の支援の中で、会話や仕草を通じて、利用者の思いや要望を汲み取り、介護記録に記入して情報を共有している。家族等からの情報で家事が得意と聞いた利用者には、洗濯物量みや掃除をお願いする等、出来る範囲で入居前と同じような生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人様の生活歴や、会話の中でこれまでの生活の様子などを聞きながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から心身の状態や現状の把握などに努めています。何かあれば記録などをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様のお話や、状態を観察しカンファレンスを開催し、プランの作成、モニタリングを行っています。	管理者や職員、計画作成担当者、医師、看護師、家族等からの情報等を基に、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画は入居時のみ3ヶ月、その後は6ヶ月毎に見直しをし、3ヶ月毎にモニタリングを実施している。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等記録、変更があれば申し送り帳に記載、記録等を用いてカンファレンスや、プラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の所、柔軟なサービスや支援は出来ないと思われま。既存のサービスに捉われない求められるサービスが出来ないか、検討、努力をしていきたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域資源の把握が出来ていないのが現状です。今後は地域資源を取り入れて入居者が豊かな暮らしを楽しんで頂けるようにしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関と連携し本人及び家族の希望を考慮し了承を得た上で受診できるようにしています。他の医療機関に関してもご家族様の状況に応じて連携を図り適切な医療が受けられるように努めます。	定期的に協力医療機関の訪問診療を行っている。訪問診療の受診結果は連絡ノートに記載し、家族等の来訪時に口頭で説明している。かかりつけ医の受診の付き添いは家族等が行うため、日頃の利用者の状態をメモ書きして家族に渡し、スムーズな受診が出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活において体調の変化などあれば報告し、アドバイスしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は職員が付き添い医療機関の方と情報を共有していきます。また、退院の際もカンファレンスなどを行い連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様に看取りについて説明しています。しかし、現在までその様な事案は無く経験がありません。今後はスムーズに対応できるよう研修などに取り組んでいきたいと思えます。	入居契約の際に、重度化や看取りに関する指針を書面で説明し、十分な理解を得た上で、利用者や家族等から看取りの意思を確認し、書面に残す取り組みを実践している。重度化や看取りについてのマニュアルを作成し、看取り介護等に備えているが、研修の実施には至っていない。	看取りを行う事業所として、少なくとも年に1回以上の研修を実施し、重度化や看取り介護についての職員の理解と共有を図る等、看取り介護の実践に向けての取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	なかなか定期的に行えていないのが現状です。今後は、定期的に行えるようにしていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との協力体制が整っていないのが現状です。今後整えていきたいと思えます。	緊急事態発生時の職員間の迅速な情報伝達と共有のために緊急連絡網を作成している。年に2回以上の避難訓練が行われておらず、近隣住民の協力を得るまでにも至っていない。	夜間想定を含めて年に2回以上の避難訓練を計画し、地域住民等の理解や協力を得て実施する等、地域の一員としての事業所の取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけ、対応をしていますが、職員により個人差があり、上手くできる方とそうでない職員がいるのが現状です。教育していけるように努めています。	接遇等の研修を実施し、利用者の誇りや尊厳等に十分配慮しながら支援をするように努めている。行事等で撮影された写真等の取り扱いについては、利用者や家族等に説明し、十分な理解を得た上で、掲示や掲載についての意思を、書面に残す取り組みを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様によっては、希望を表出するのが難しい方もいるので、よく傾聴し、また観察をしながら、何を求めているのか見極め行けるように努めます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で出来る限りご本人様の意思を尊重してケア等を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪屋さんがきてくださり、ご本人様の好みでカットしてもらっています。また、女性の方で、ご自身で化粧水などを管理し、適宜ご使用になっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものは提供しない様になっています。また、職員、入居者様一緒に食事をし、下膳も一緒に行っています。	利用者の好き嫌いを把握し、嫌いな献立の場合は代替食を提供している。事業所のプランターで栽培した野菜を献立の食材に取り入れる等の工夫をしている。外出の際に外で弁当を食べる等、利用者が事業所以外の場所で、気分を変えて食事が楽しめるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事量、水分量を把握し、少ない方などには声掛けをしたりしています。食事形態も個人に合わせて変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて各個人の排泄状況を確認し、声掛けをしたり、誘導をしています。	利用者の生活リズムや排泄チェック表等から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレに誘導する等、利用者の尊厳に配慮した排泄の自立支援に取り組んでいる。入居時に布おむつを使用していた利用者が、トイレでの排泄を目標に支援を続けるうちに、リハビリパンツへ移行する等が出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく多く水分を取って頂き、体操や室内歩行など参加して頂いたり、腹部マッサージなど状況に応じて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングを考慮し、入浴の声掛けをさせて頂いています。無理強いはしない様になっています。	週3回の入浴日を設けているが、利用者の体調や状況等によって入浴日や時間を変更したり、誘導の際の職員を変える等、利用者が心地良く入浴し清潔を保てるよう支援している。入浴剤を使用したり、季節によってはゆず湯や菖蒲湯を準備する等、利用者が季節を感じ入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日中は活動に参加して頂く様にしていますが、体調やその時々状況に応じて休息をとって頂く様にしています。車椅子使用の方には適宜横になって頂く様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方箋をファイルしています。処方変更あれば、連絡帳に記載し、ファイルを見る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴等を考慮し日々の仕事をお願いしています。その際は、感謝の気持ちを伝える様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩に出掛けたり、回数は多くはないですが、ドライブに出かけています。また、ご家族様にも、外出をして頂けるよう声掛けしています。	健康状態に合わせて、散歩に出かけたり、近隣のスーパーマーケットやショッピングモールに出かけている。天気の良い日には、ウッドデッキに出て、日光浴を楽しんだり、家族等の協力でプランターで野菜し、季節を感じさせるよう配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から小口現金としてお金をお預かりしています。そこから必要時現金を使用しています。使った場合記録し、ご家族様に報告させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限はしておらず、希望があれば、かわりに連絡をとったり、ホームの電話を使って頂く様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な飾りつけはせず、シンプルな空間になっています。季節の飾りつけも行っています。	玄関前や事業所の周りは季節の花が植栽されている。居間兼食堂は、天井が高く天窓から光が射し込み、明るい居心地の良い空間になっており、湿度・温度管理がこまめになされ、快適な空間になっている。廊下には手すりやフットライトが設置され、利用者の安全確保に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの一部にソファを置いて思い思いに過ごせる空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族の要望に応えるようにしています。馴染みの物やご家族の写真などを飾っている方もいらっしゃいます。	居室内にはトイレ以外の生活に必要な物が設置されているが、利用者がそれぞれ馴染みの物を持ち込んで自分らしい暮らしが続けられるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内がほぼ段差がなくバリアフリーになっています。手摺りも設置し、必要ない物はむやみに置かず、入居者様の邪魔にならない様にしています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームクリクリ田彦

作成日 平成30年7月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急事態発生時の職員間の連絡網は作成してはいるが、年2回以上の避難訓練を近隣住民の協力を得ながら行えていない。	年2回以上訓練を行う。	運営推進会議等を利用し、地域の方に協力を得ながら入居者様、職員全員で行う。	12ヶ月
2	33	重度化や看取りに関しての指針を契約時に説明し、マニュアル等作成してはいるが、研修の実施には至っていない。	研修を年度内に開催し、重度化や、看取りに関して職員間の理解と共有を図る。	研修会を実施する	12ヶ月
3	1	理念の意識付けは行ってはいるが、地域密着型の意義を踏まえた事業所独自の理念の検討、作成に至っていない。	地域密着型の意義を踏まえた事業所独自の理念の検討、作成をする。	ミーティング等で職員で話し合い、理念の作成をする。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。